

1 単元 ひきざん（1）

- 2 目標 具体的な場面から減法の意味について理解し、それらを用いることができる。
- ・減法が用いられる場面について知り、それらを式で表したり、その式を読んだりできる。
 - ・繰り上がりのない1位数と1位数の減法の計算の仕方を考え、計算ができる。

3 評価

関心・意欲・態度	数学的な考え方	表現・処理	知識・理解
生活の中から減法の場面を想起して、意欲的に問題作りに取り組もうとする。	文や絵から減法の場面について判断できる。	10以下の数について、減法の計算ができる。	数について減法ができることを理解し、減法の記号と等号を用いた式がわかる。

4 指導計画（全11時間）

- 第1次 のこりはいくつ 4時間
- 第2次 ひきざんかあど 2時間
- 第3次 0のひきざん 1時間
- 第4次 ちがいはいくつ 2時間
- 第1時 いくつおおいでしょう（本時）
- 第2時 とちらがどれだけおおいでしょう
- 第5次 ひきざんのえほん 1時間
- 第6次 ちからだめし 1時間

3 指導上の立場

・単元について

ひき算の意味の理解は、今後の減法の計算の基礎となるので、種々の具体的な場面を数多く扱い、減法の場面の判断が確実にできるようにしたい。

この単元では、次の4つがでてくる。初めの数量の大きさから取り去ったり減少したりしたときの残りを求める求残。全体と部分を知ってその補集合を求める求補。なくなった数や取った数、0を含むひき算。「ちがいはいくつ」という2つの数量の差を求める求差。

「のこりはいくつ」では、求残の場面がひき算における最も基本的な場面であるので、「のこりは」をキーワードとして着目させ、減法の場面と結びつけさせていきたい。次第に文章から「のこりは」の言葉がない場面でも減法の問題であることを児童自身で判断できるようにさせたい。

「0のけいさん」では、0を含むひき算の意味を具体的な場面で理解させることが大切である。児童は「0は、なにもない」と感じているが、何もないことを「0という数字で表す」ことをおさえたい。

「ちがいはいくつ」では、「どれだけおおいか」という場面で操作をしたり、お話作りをしたりする中で、「ちがいは」という見方ができるようにしていきたい。

本単元では、ひき算の場面をしっかりと理解させて、具体的な操作活動からひき算の記号（－）と等号を用いて立式させるようにしたい。また、計算のしくみを頭の中で描かせながらくり返し計算の練習を体験させることで、正しく早くひき算の計算ができるようにさせたい。

・児童の実態

削除しています。


・研究主題との関連

今年度の研究主題は、「生き生きと自分の思いを表現できる富原っ子をめざして」～算数科を通して～である。そのために、まず自分の考えを話すことに慣れさせていきたい。そこで、自分で考えたことを、うまく言えなくても自分の言葉で伝えることをくり返し体験していくことで、自信を持たせてきた。具体的には、話し方の話形や声のものさしを提示して、話をさせたり、よい言い方をまねさせたりして、話しやすくしている。また、聞く側も相手が何を話しているのか考えながら聞くことが大切であり、話し手の一方的な発表にならないように、内容をくみ取る気持ちをもって聞くことをくり返し指導している。

本単元では、ひきごんの意味をブロック操作をしながら考えることで、自分の言葉でまとめやすくなり、発表意欲につなげていきたい。

4 本時案（第4次の第1時）

学 習 目 標	・「いくつ多いか」をたずねる場面も、減法の式を適用できることを理解する。	
学 習 活 動	教師の主な発問と予想される子どもの反応	支援と評価
1 問題場面を理解し、課題をつかむ	<p>○それぞれ何びきいるかな？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・犬は 7ひきです。 ・ねこは 5ひきです。 <p>○犬はねこよりなんびき多いでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2ひき ・ . . . ? <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>なんびきおおいかがよくわかるようにならべてみよう。</p> </div>	<p>○犬とねこの絵を貼り、教師が手紙を読んで問題を説明する。興味づけに、「ピカリン（教科書のマスコット）からのお願い」という手紙を用意する。</p> <p>○文章の問題を読ませ、文と具体的場面を対応させてつかませる。</p>
2 犬ねこをブロックに置き換えて、何個多いかわかるように並べる。	<p>○ブロックで犬がなんびき多いかわかるように並べてみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ □□□□□□ □ ■■■■■■ ・ □□□□□□ □ ■■■■■■ ・ □□□□□□ □ ■■■■■■ ・ □□□□□□ □ ■■■■■■ 	<p>○ワークシートの犬ねこの絵の上に、ブロックを必要分置かせ、具体物を数として意識させる。</p> <p>犬 . . . 白7個 ねこ . . . 黄5個</p> <p>○ブロックをブロック板に移し並べて考えさせる。</p> <p>○机間指導をし、困っている児童には説明の手助けをしてやり、自分で言え</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・  □□ 	<p>るよう支援する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何個多いかよくわかるように工夫して並べることができたか。 〔表現・処理〕
<p>3 自分の意見を発表する</p>	<p>○どうしてその並べ方をしたのかみんなに説明してみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・犬の下にねこをおくとよくわかる。 ・くらべやすいようにならべた。 ・よこにならべるとかぞえやすい。 ・はしをそろえてならべた。 ・同じかずだけとった。 ・ねこのかずだけとった。 ・いぬとねこをせんでむすんだ。 	<p>○ブロック板を見せ、自分の言葉で説明させる。チョークで書き込みをしてもよいことを伝え説明の手助けにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを友達に説明しようとしたか。 〔関心・意欲・態度〕 <p>○どれだけ多いかがわかるのは、ブロックを上下に並べた図であり、多いところがどこかをつかませる。</p>
<p>4 式に表す。</p>	<p>○どんな式になるでしょう？</p> <p>○ワークシートに書いてみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ $7 - 5 = 2$ ・ 7は5より2おおい。 <p>○答えも書こう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ こたえ 2ひきおおい。 	<p>○図がひきざんになることを説明して、式や答えを確認させる。</p> <p>○ワークシートに式と答えを書かせる。</p>
<p>5 練習問題をする。</p>	<p>○練習問題に挑戦しよう。</p>	<p>○文章問題を読ませ、ケーキと皿を線で結ばせ、立式させる。</p>
<p>6 まとめをする。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>まとめ _____</p> <p>いくつおおいかをかんがえるときもひきざんをつかう。</p> </div>	<p>○早くできた児童には、プリントをさせる。</p> <p>○声を合わせまとめを読ませる。</p>